
明日

GOMA

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

明日

【Nコード】

N0502U

【作者名】

GOMA

【あらすじ】

働き始めの若者。友人言葉からの自分の仕事について考える。

「俺、仕事辞めるわ」

昨夜、寮の友人の部屋にお邪魔したときに言われた。

「そうか・・・」

ただ一言そう答えた。

感じてはいた。だから余計な詮索や引きとめるようなことはしなかった。

全国展開の銀行は離職率が高い。課されるノルマに加え、数年周期で訪れる転勤は精神に休む暇を与えない。鬱病などはよく聞く話だ。そのため同期が辞めるのも珍しくはない。

しかし、友人の退職理由はそういったものではなかった。

「もう嫌なんだ。あんなもの売るのは」

あんなもんというのは投資信託のことである。

投資信託は銀行の収益の中でもかなりの部分を占めている。

またその地域での地盤を確立すればするほどにその活動は活発になる。それは新規先を発掘できない限り事業性貸出部門の収益増加は望めず、いつでも売れる投資信託に白羽の矢が立つからである。

「こないだ老人ホームに研修に行つてさ。講演やつてたんだよ。」

悲しそうに天井を見ながら言葉を続ける。

「銀行員がお金を持つてる方に近づいてきます。相手をしてはいけません。だってよ。俺いんのに、笑つちまうよな」

こちらを見て笑う。その笑いはどこか自嘲めいていた。

確かに痛い言葉だ。収益を上げるにはまとまった金額で買ってくれる客を探したほうが効率いい。必然的にお金の貯まった老人がターゲットになる。

「甘いのはわかってる。でもこれ以上は無理なんだ。」

その言った顔は過去してきたことを後悔しているように見える。

甘い。それは他の仕事でも人を騙すことはあるということだろう。

「騙す」そういうと聞こえは悪いが実際俺の上司も言っている。

「投資信託なんて如何に相手を騙すかじゃないか」

投資信託セールスの特性上、客が儲かるものを売るのが必然である。しかし、実際は銀行員もよくわかっていないのが現状である。銀行員だから特別な情報を持っているなんてことはない。もし持ちえていたとしても、それで販売すれば犯罪だ。無論職業上その手の情報にはよく接する。だからといって今後どうなるか予想することはかなり困難だ。大体にして、投資信託で収入を得たいならば概算でも収入の期待値を算出すべきものである。どの程度の利益が見込め、どの程度の成功率なのか。それが算出できないようではお話にもならない。多くの人は曖昧な言葉の中、手数料を差し引いて利益が出る取引なのかどうかもわからないままに取引している。しかし、曖昧なのは銀行のせいではない。法律でそうなっているのだから。

「これは儲かるんです」

なんて言ってしまった日には大問題。裁判沙汰だ。

この法律は客というより銀行側に利益をもたらしているのかもしれない。実際曖昧なことで、逆に一部の人に銀行を盲信させる結果となっているように感じる。

「銀行さんが言うのだから」

そういった人は少なくはないだろう。もちろん当初なんと言って売っていて、最終的にはお客様の判断と念を押すのだから責任はとらない。

こういったことは銀行の・・・いや金融業の闇の部分なのかもしれない。どの仕事についてもそんなことはある。同僚や上司はそう言うけれど、「他がやっているのだから自分もやっていい」なんて結論は常識ある人間なら否定するものだろう。

「今までありがとうな。落ち着いたら連絡するからさ」

そう言い残して、三日後友人は去っていった。

友人のような悩みを他の人はどう克服しているのか。

ある人ははつきり仕事だと割り切り。

ある人は全く考えない。

克服するというより適応したという方が合っている。

俺はどうだろうか・・・。

今後ずっとこうやって生きていけるのか。

仕事だからと、生活のためだと割り切ることができるのか。

「人を騙してまでやりたい仕事じゃないんだよ。」

その言葉が頭の中から消えない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0502u/>

明日

2011年10月9日08時13分発行